

開講期間	配当年	単位数	
春学期	1年	2 単位	
担当教員			
小川 哲司			
講義形態：講義	t-ogawa@meion.ac.jp		
添付ファイル			
ナンバリング			
カリキュラムマップ			
授業の到達目標	授業テーマ：今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることが本講義のテーマである。 到達目標：学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、データに基づく人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。		
学習の方法（課題に対するフィードバックの方法を含む）	学習の方法：本講義では、コンピュータを用いた実習形式で授業を進める。データ・AI利活用事例のテーマに基づき、実データを用いて、実際に手を動かしてデータを可視化する等、データ利活用プロセスを実践する。また学生がデータ・AI利活用事例を調査し発表するグループワークなども積極的に取り入れていく。授業で利用する資料やデータなどのファイルは授業中に配布する。授業では、学習内容の定着を図るために、毎回課題を提示する。 フィードバック：課題に対するフィードバックは、授業中の解説を通して行う。 その他：コンピュータを利用するため、授業中の飲食は禁止とする。		
事前・事後学習とそれに必要な時間	毎回の授業において、次回テーマに関連する文献調査、情報の分析、資料作成などに4時間程度の準備が必要となる。		
授業の概要	本授業では、情報通信技術やAIなどの進化によって社会で起きている変化を捉えて、データ・AI利活用の最新動向や技術などの理解を深めていく。またデータ・AI利活用するための技術を身に付けて、データを集計・分析を行い、可視化して説明できるようになることを目指す。さらに、データを守る上での留意事項などについても学習する。		
授業計画	第1回 社会で起きている変化 第2回 社会で活用されているデータ 第3回 データ・AIの活用領域 第4回 データ・AI活用のための技術 第5回 データ・AIの活用現場 第6回 データ・AI活用の最新動向 第7回 ビッグデータの特性 第8回 データを扱う （クロス集計） 第9回 データを読む （可視化） 第10回 データを読む （基本統計量） 第11回 データを読む （ばらつき） 第12回 データを読む （相関） 第13回 データを読む （回帰） 第14回 データを説明する （グラフ化、比較） 第15回 データを扱う上での留意事項		
アクティブ・ラー	無		

ニング導入の有無 とその内容	
テキスト（必携）	なし
参考書・参考資料 等	なし
成績評価の方法と 評価の基準	成績評価：授業への参加姿勢と課題によって評価する。 評価基準：授業への参加姿勢（50%）と、課題（50%）によって評価する。
授業科目に関する 実務経験の有無	